お伽訓話

腰折れ雀

今はむかし丁度此頃の樣な小春日のうらゝかに心地よく晴れ渡つたある日の事六十許りになるお婆さんが、お椽側で日なたぼつこをして居りました、そうすると、どこからか雀が一羽來て樂しそうにチユ〳〵と云ひながら餌をひろつて居りました、おばあさんもうれしそうにこ〳〵してそれを見て居ましたがいつ迄しても飛んで行きそうにもしませんから、不思議だと思ひ乍ら見て居りますとすぐその上の木へ烏が來て、カア〳〵〳〵云ひ乍ら雀を取らふとして居ります、雀はそうと知つて逃げやうと思ふのかしきりに羽をバタ〳〵させますが飛べないのです、お婆さんは急ひで降りて行つて見ますと、腰の骨が折れて居

ますので、

『おゝ〳〵可愛そうに〳〵も少しで烏にたべられてしまふ處、あゝよかつたよかつた』

と獨り言云ひ乍ら抱いて來て、懷へ入れて溫めてやつたり、お米を碎ひてたべさせたりして可愛がつて〳〵育てゝおりました。

雀もお婆さんの親切をうれしくありがたく思ふと見え、お婆さんの肩へ止まつては、チユ〳〵とうたひ、ふところへもぐつてはおとなしく眠りなどして居ります内に、腰もだん〳〵よくなつて、少しづゝは飛べるやうになつて來ました、お婆さんはうれしくて〳〵たまらず、お詣りになど行く時は子供たちによくたのんで行きますので、子供たちも皆んなでかはゆがり大事にして居りました。

そうして居ります内に餘程高く遠くへと飛べるやうになれましたので、或日の事お婆さんは庭につれて行き、

『雀さんやもう大變からだも丈夫になつたやうだから、烏に取られる事もない

でせうさあおうちへお歸りよ』

とよく云ひ聞かせてにがしてやりますと、雀はうれしさうに二三度あちこちの枝に止まつては、チユ〳〵とお禮を云つて、向ふのお山の方へいつてしまいました。お婆さんは毎日〳〵かはゆがつた雀が飛んで行くのを見て、

『おゝよかつた長い間世話した甲斐があつて、あんなによく飛べるやうになりましたよ今にまた遊びに來るでせう』

と獨り喜んで居りました。

さてこれから廿日許りたつてから、お婆さんはいつものやうに椽側で、お子たちにお伽話をして聞かせて居ますと、雀が一羽しきりに鳴いて居ます、お婆さんはもしや此間の雀が、來たのではないかとうれしく思ひながら、よく〳〵見ますと雀も頻りにお婆さんのそばへ來て、チユ〳〵と云つて居ます、お婆さんは膝にのせて、

『おゝよく忘れずに來ましたね、おゝ〳〵腰の骨もすかり丈夫になつてよかつ

たくよく來たね』

とさもくうれしそうにお話をして居りました。

其内雀は、何が少さなものを一つ口から落して又あつちへ飛んで行つてしまひましたので、お婆さんは何かとひろつて見ますと瓢簞の種でした。

『雀が之を持つて來て吳れたのでせうから植えて見ませう』

と云つて日當りのよい處へ植えて置きました。

それから皆で毎日くに水をやつたり、土をかけたりして居ります内に、可愛らしい芽が出て來、それが日にくそだつて見事の瓢簞がたくさんくなりました。お婆さんや子供たちは大喜びして、あんまり立派だからと云つて御隣にもあげ、おぢさんやおばさんのおうちにわけてあげたりして、どんく取りますがいくら取つてもくなくなりません、其内にも一番大きいのを七つ許り、干して瓢簞にしやうと云つて軒につるして置きました。しばらく過ぎてからもうよい時分でせうと思つて口をあけやうとしますと、何やら大層おもいので變だ

んだと皆が云ひ乍ら口を切つて見ますと、まあ不思議〳〵お米が一ぱいはいつて居ました。お婆さんや子供たちは、

『お婆さん、どうしたのでせう、へうたんの中にお米がはいつているなんてねえ』

とうれしそうに見て居ます、お婆さんは、

『さあ早く桶か何か持ていらつしやい、あけて見ませう』

と家中皆大よろこびして居りました。あと殘つたのはどうかしらと、又皆おろして來て口を切つて見ますと、どれにも〳〵一ぱいに米がつまつて居ます、そうしていくらあけてもあけてもつきず、空になつたからと思つて次のをあけて居る内に、もう先のが一ぱいになつて居るものですから、もう此お婆さんのおうちではお米は買はなくつてもよいやうに澤山になりました、お婆さんは、

『是はきつと此間の雀が、御恩返しに持つて來て吳れたのでせう』

と子供たちにも話して毎日喜んで暮して居りました。

そうしますと其お隣りにも一人のお婆さんが住んで居ましたが、此頃お隣りが急にお米が澤山あるのを見て、どうした事かとうらやましくなりましたので、或日杖をつき〳〵お隣へ來ました、そして、

『お婆さん〳〵お宅では此頃大變お米が澤山におうりになりましたが、どうなさいましたのです』

と聞きますので、おとなしいお婆さんは、

『之は此間雀がひさごの種を一つ落して行きましたので、それを植ゑましたらこんなにお米が取れましたのです』

と申しますと、

『おや〳〵どうして雀が落していつたでせうね、もつとくはしく御聞かせ下さいませんか』

としきりに賴みますので、おとなしいお婆さんは、少しもかくさず初めからの御話をしてあげました。よく深のお婆さんは其種を一つ下さいませんかと云ひ

ましたから、種はありませんがお米でよければいくらでも持つていらして下さい、と云ひましたが。

『お米など少し許りいたゞいても仕方がありません、それよりか私も腰の折れた雀をさがして見ます』

といつて歸つてしまひました。

それからと云ふもの、毎日〳〵お庭を見て居ますが、腰の折れた雀など中々見つかりません。或日の事朝早く起きて裏の方へ出て見ましたら、井戸端に澤山の雀があつまつてしきりにお米の落ちたのを拾つて居ます、いくらよく氣をつけて見ましても皆丈夫にぴん〳〵して居ますので、お婆さんはどうかしてあの雀の腰を折つてやりませうと獨り言云ひ乍ら小石を澤山拾て、一度にバラ〳〵ツとなげました。雀たちは今迄、折角おいしい御馳走をたべて居りました處へ急に石が降つて來ましたので、みんな大びつくりしチユ〳〵と鳴き乍ら、急いで飛んで逃げましたが、可愛相に一羽の子雀は石をあてられ飛べなくなつて、

たゞ羽ばたき許りしながら親雀や、友達雀の飛んで行くのをうらやましそうに見て鳴いて居りました。お婆さんは大喜早速つかまへ、もつと〳〵腰をよく折つて籠の中へ入れてしまひました。何と可愛相ではありませんか、雀はどんなに痛かつたでせうね。しかし、お婆さんはそんなことにはがまわず、然も親切そうにお米を嚙んでやつたり藥をつけて遣つたりして世話をしましたので、雀の腰も漸くのことで、丈夫になりました。そこでお婆さんは雀に向つて、

『コレ〳〵雀や私はお前の腰の折れたのを援けて直して上げたのだよ今放して上げるから御禮にひようたんの種子を持つてお出でよ』と云ひながら、籠から出して放してやりました。二三日すると雀はひようたんの種子を一つ椽側に落して行きました。お婆さんは『是だ〳〵』と云ひながらニコ〳〵もので早速之を庭の隈に蒔いて置きますと、直きに芽が出て大きなひようたんが澤山なりました。此時の慾深お婆さんの悦びつたらありません。

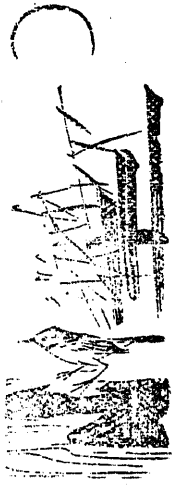
『さあみんな早く桶やざるを持て來てお呉れ、之から口を切らふ、成るたけ大きなものを持つてね』

なぞと獨り喜んで皆を呼び集め、

『いゝかい桶をお出し』

と云ひ乍ら一つ口を切りました處が。さあ大變お米どころか、あぶ、蜂、むかで、とかげ、蛇などのいやな虫が、うぢや〳〵と出て來て、目をさす蜂があれば首にまきつく蛇もあるしお婆さんのからだへ皆たかつて行きますがお婆さんは痛いのも分らず、只々お米がこぼれかゝるのかと思つて。

『まあ〳〵雀さん少し待つて下さい少しづゝあけて行きますから』

と云ひ乍ら八つとも皆口を切りましたから大變とも大變ともそれは大變な虫けらで、逃げまどふ子たちをさすやらお婆さんのからだには一ぱいたかつてしまいましたのでさすが慾深のお婆さんも、びつくりしてにげやうとしましたがどうする事も出來ずとう〳〵虫にさし殺されてしまいました、

それだから、慾深く人のものなど、ものうらやみするものではありません。